

| | | |
|---|---|----------------------------|
| 〔科目名〕 財務戦略 | 〔単位数〕 2単位 | 〔科目区分〕 経営学科の展開科目 |
| 〔担当者〕 Takahiko Ochiai 落合 孝彦 | 〔オフィス・アワー〕 時間: 第1回の授業でお伝えします。 場所: 第1回の授業でお伝えします。 | 〔授業の方法〕 講義形式 |
| 〔科目の概要〕 <p>現代の上場企業は、その目的を企業価値(業績)の向上に置いていますが、それを達成するためには、「環境との関わりの中、持続的成長を達成する上で必要な競争優位性を確立するための指針」である経営戦略が重要な意味を持ちます。この経営戦略は①全社レベル、②事業レベル、③職能レベルの3つのレベルで議論されますが、「財務戦略」は③に区分される職能戦略となります。</p> <p>財務戦略において重視されるのは「資金(資本)の調達」、「調達資金(資本)の運用」、「剰余金の分配」機能です。個別事業の性質・規模・リスクに応じて、あるいは企業経営全体の最適化を考慮して資金(資本)調達方法を選択することは、財務リスクのコントロールを通じた総リスク(事業リスク+財務リスク)低減によって、企業価値の向上に貢献します。</p> <p>かかる観点から調達された資金(資本)の運用を通して獲得された利益やキャッシュが企業価値に影響を及ぼすことから、運用(投資)は調達以上に重要な財務問題となります。よって運用、即ち投資の実施に当たっては、株主や債権者の期待収益率を超える利益率が達成されるかについての事前の検討が必要となります。「財務」がなぜ「戦略」と関わることか問われれば、投資の意思決定に関与するからだ、というのが「答え」になるでしょう。</p> <p>以上の説明からわかるように、本科目は「戦略目標を達成する上で、財務職能に期待される役割・手法について説明する科目」となります。</p> | | |
| 〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>本科目は、経営学科における経営学の専門・展開科目(選択科目)です。よって「経営戦略論」の展開と位置付けることもできますが、扱う内容が「財務」であることから、「財務管理論」、「財務分析Ⅰ」、「財務分析Ⅱ」といった「会計・財務関連科目の展開」という性格を色濃く持っています。</p> <p>授業内容がダイレクトに「資格・検定等の取得に結びつく」ものではありませんが、財務分析や財務管理における学習内容の復習・確認といった側面もありますので、「中小企業診断士」や「ビジネス会計検定」等の試験に関わりのある内容となっています。</p> | | |
| 〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 中間目標 <p>近年生じた企業経営に係わる環境の変化を、財務の観点から把握する。 財務指標の意味を理解した上で、その計算方法に習熟する。 収益性指標と企業価値の関連を適切に捉える。 経営戦略および経営計画の策定が企業価値に与える影響について、ケースに基づき理解する。</p> ● 最終目標 <p>企業の資金調達手法、その多様性について理解する。 事業リスクと財務リスクの低減方法について理解する M&Aを財務戦略の観点から捉えなおし、その効果について理解する。 近年、配当政策が重視されるようになった背景について理解する。</p> | | |
| 〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>「授業評価アンケート」では、例年、次にあげる問題点が指摘されています。 「話すのがはやい」 / 「授業のペース・進度がはやい」 / 「配布資料の誤記」。 以上の指摘すべてを完全に解消することは困難ですが、今後もこれらの解消に努めます。</p> | | |
| 〔教科書〕 <p>使用しません(なお、参考書欄の「①の書籍」をお持ちの方は、授業の際に活用してください。)</p> | | |

| | |
|--|--|
| 〔指定図書〕 指定しません。 | |
| 〔参考書〕 ① 境陸・落合孝彦[2019]『グラフィック経営財務』新世社。 ② 坂本恒夫・鳥居陽介編著、現代財務管理論研究会著[2015]『テキスト財務管理論』第5版、中央経済社。 | |
| 〔前提科目〕 「財務分析Ⅰ」、「財務管理論」 | |
| 〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ●「課題研究」の提出2回 ① 第1の課題研究は成績評価に加算(40点満点)。テーマは次の2つから選択すること 「事業リスクと財務リスク」 / 「近年のM&Aの状況について」 ② 第2の課題研究は第15回授業の代替。テーマ「わが国の株式所有構造の変化が企業財務にもたらした影響」。 ●授業中、理解度を確保するために課題を示しますので、それを提出してもらいます(10点)。 (当該課題の内容については第1回の授業にて説明します。) ●第14回の授業で「理解度確認テスト」を実施します(50点満点)。 | |
| 〔評価の基準及びスケール〕 ●100点満点で評価します。 80点以上 : 評価A 80点未満 ~ 70点以上 : 評価B 70点未満 ~ 60点以上 : 評価C 60点未満 ~ 50点以上 : 評価D 50点未満 : 評価F | |
| 〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ● 講義中の食事は認めません。 ● 授業進行を妨害する行為は厳に慎んでください。教員から注意を受けてもそれを聞き入れず、指摘を受けた行為に改善が認められない場合は、「試験・レポート等の評価に関係なく成績をFとする」こともありえます。 ● 諸般の事情、とりわけ新型コロナウイルス蔓延防止の影響により、シラバスのスケジュールどおりに授業が進行しない、あるいは、一部の授業内容を変更することもありえます。ご了承ください。 | |
| 〔実務経歴〕 該当なし。 | |
| 授業スケジュール | |
| 第1回 | テーマ(何を学ぶか): 経営環境の変化と企業財務 内 容: 株式所有構造の変化 参考書② 第7講 |
| 第2回 | テーマ(何を学ぶか): 経営戦略・経営計画・財務計画 内 容: マネジメントサイクル、ドメイン、成長戦略、競争戦略、職能(機能)戦略、財務計画 参考書①第1章、 |
| 第3回 | テーマ(何を学ぶか): 利益計画と収益性分析 内 容: ROA、デュボンシステム、ROE(3指標分解と2指標分解)、ROEとPBRの関係 参考書①第2章 |
| 第4回 | テーマ(何を学ぶか): 利益計画と採算性分析 内 容: 損益分岐点分析、営業レバレッジ度、財務レバレッジ度 参考書: 対応箇所無し |

| | |
|------|---|
| 第5回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 利益管理とEVA 内 容: 会計的利益と経済的利益の違い、EVA スプレッド、EVA 使用上の留意点</p> <p>参考書: 対応箇所なし</p> |
| 第6回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 安全性(安定性)の分析 内 容: B/Sに基づく短期・長期の支払い安全性分析、CF 分析との関連について</p> <p>参考書①第3章</p> |
| 第7回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 事例研究 内 容:</p> <p>参考書: 対応箇所なし</p> |
| 第8回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 事業計画と資金調達(1) 内 容: 借入金、社債発行による資金調達</p> <p>参考書: 対応箇所無し</p> |
| 第9回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 事業計画と資金調達(2) 内 容: 株式の発行による資金調達</p> <p>参考書: 対応箇所無し</p> |
| 第10回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 事業リスクと財務リスク 内 容: 事業リスクの意味と測定方法、財務リスクの意味と測定方法</p> <p>対応箇所無し</p> |
| 第11回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 配当政策 内 容: 配当支払いの歴史、配当水準の決定要因</p> <p>参考書①第10章</p> |
| 第12回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 環境変化への適応(1) 内 容: 資産証券化</p> <p>参考書②第26講</p> |
| 第13回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 環境変化への適応(2) 内 容: 経営戦略としての M&A</p> <p>参考書②第29講</p> |
| 第14回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 学習内容の確認 内 容: 学習内容の確認と「理解度確認テスト」の実施</p> <p>参考書・対応箇所無し</p> |
| 第15回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 内 容: 「課題研究」の提出にて代替する([学修の課題・評価の方法]を参照。)</p> <p>参考書: 対応箇所なし</p> |
| 試験 | <p>詳細については第1回の授業で説明する。</p> |